



桐

K

I

R

I

目黒学院高等学校同窓会事務局

〒153-8631 東京都目黒区中目黒1-1-50

電話 03-3711-6556

編集発行人 会長 安達 富夫

URL <http://www.meguro.ac.jp/Kiri/>



平成22年度会務報告と総会・ 懇親会の繰り延べについて



同窓会会長

安達 富夫

(昭和43年 3月卒)

去る3月11日に発生した「東日本大震災」によって、被災されたすべての方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地域の安全の確保と一日も早い復興・復旧を衷心よりお祈りいたします。また、その後に発生しました東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴

う避難生活で、長きにわたって不自由な生活を余儀なくされている方々にも、大変に心を痛めております。くれぐれも希望を失わず、ご自愛くださるようお願い申し上げます。

さて、本年は、平成20年に総会および懇親会を開催して以来、3年目に当たります。そこで、7月に3年振りの総会および懇親会を開催すべく、1月には開催会場も決定し役員一同にて、準備を進めてきました。そのような中、このたびの未曾有の被害をもたらした大震災が発生しました。そして、本会会員の中でも、住所が判明している方のうち、このたびの大震災による災害救助法適用地域（青森、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、千葉、長野、新潟県）にお住まいの方々が、250名弱もいらっしゃる事がわかり、会員のご家族や関係者も含めると、相当数の方々が被害に遭われ

ているのではないかと推測されました。

本会では、被災地域居住の会員の皆様お一人ひとりの安否確認は出来ていませんが、3月29日開催の役員会にて慎重に検討した結果、このような状況の中で、本年の総会および懇親会を開催することは適当でないと判断し、明年へ繰り延べることにしました。会員の皆様におかれましては、3年ごとの総会および懇親会を楽しみにされている方々もいらっしゃると思いますが、何とぞご理解を賜りたくお願い申し上げます。

また、本会役員の任期は、会則第8条にて3年と定められており、これまでは総会開催時に役員改選のご承認をいただいていたまいりました。しかし、前記のとおり総会の開催を1年間繰り延べたことにより、現役員の任期についても本年7月までのところ全員1年間留任させていただくことを、本誌を通して会員諸兄のご理解とご承認をお願い申し上げるしだいでございます。

次に、本誌を通してこの1年間の本会の経過報告等をさせていただきます。

母校の行事につきましては、例年同様、卒業式、栢林祭に同窓会から代表が出席して、卒業生、在校生に対する祝意と激励を行ってまいりました。このうち、卒業式後には、本年から中学・高校の6年間を終えられた「卒業を祝う会」と、高校3年間を終えられたPTA主催の「謝恩会」の両方に、同窓会から代表が出席して、祝意を表させていただきました。

本会の会員数について申し上げますと、去る3月10日の第63回卒業証書授与式を以て、新たに213名の新会員を迎え、会員総数では30,109名といよいよ3万人の大台を超えるに至りました。このうち、本年の親子2代に亘る卒業生は、3組6名でありました。(5頁記載)

また、例年ご協力をいただいております同窓会賛助会費の納入については、本年も多数の会員からのご賛同と深いご理解をいただき、平成22年度は7頁にご芳名記載のとおり192名の方々から納入をいただきました。

このうち、新規に納入をいただいた方々は52名でした。

ここに、謹んでお礼を申し上げます。この賛助会費は、すでに本誌にてたびたびご案内させていただいておりますが、一口1,000円で全会員を対象にご協力をお願いしております。

ところで、この賛助会費は、同窓会の危機的な財政状況を打開するため、平成元年から納入をお願いいたし、ご協力をいただいていたまいりまして、これまで本会の財

政再建に大きく寄与してくれております。大変に有り難うございます。

昨年は前年に比較すると納入者数は若干、増加となり、収納金額も増加しました。この中には、お一人で大口納入のご協力者もいらっしゃいました。誌上にて心から御礼申し上げます。

本年も、本誌の発送とともにすべての会員に、賛助会費(同窓生年会費)の払込通知票を同封させていただきましたので、会員諸兄のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、口数は任意ですので、お志のある方は、是非、複数口のご協力を重ねてお願い申し上げます。

おわりに、平成23年度の本会の活動は、明年、4年ぶりとなる総会・懇親会を開催するに当たり、その準備を行う年とします。今後もお一層、同窓会に対するご支援、ご鞭撻、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

会員諸兄、母校在校生並びに教職員の皆様方の益々のご健康とご発展をお祈り申し上げて、会務報告とご挨拶といたします。



優しさと和をもち
大切な建物を守る

優和デザイン

北村 徳章 (平成2年卒)

∞∞ 目黒学院卒業生の皆様 ∞∞

建物の改修工事など

お気軽にご相談下さい。

〒115-0045

東京都北区赤羽1-66-10 シティ赤羽602

TEL 03-6802-6536

e-mail : yw-design@ksh.biglobe.ne.jp

ご挨拶と学校の動向



理事長・校長

関 口 隆 司

平成23年3月11日の東日本大震災は、東北・関東地方を中心とする国内に大きな被害をもたらすこととなりました。生徒及び教職員は全員無事ではありましたが、関係者には被災された方々も少なくありません。心からお見舞いを申し上げます。本校では3月14日から全ての行事を中止し、その後30日までは休校といたしました。休校中は同窓生の皆様にはご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。おかげさまで3月31日からは通常通り行事をとり行うことができました。ただし、5月8日までは部活動の一部制限、下校時間を30分早める等の措置を講じておりました。今後も生徒の個性を良い方向に導くための教育内容の充実に邁進する所存です。

さて、本年4月の新入生は、中学生44名、高校生269名となりました。そのうち女子は中学生9名、高校生31名となっております。中学校・高等学校をあわせた生徒数も昨年に比べ70名近く増加し、一新された制服を着た新入生も学校生活に慣れ、学園全体に華やかさと活気をもたらしてくれております。何卒、卒業生の皆様におかれましては、引き続き創立71年目の「新生・目黒学院」へのご支援とご協力を賜りたいと念願しております。

以下簡単ですが学園概況のご報告を申し上げます。

1. 学校行事等

前述の通り、平成22年度の目黒学院では、東日本大震災の影響で、残念ながら3月14日以降の行事を中止せざるを得ませんでした。その結果、高入生対象の教育活動報告会、一貫生対象の保護者会、平成22年度終了式等の開催を見合わせました。平成22年度中に実施しました校舎の耐震補強工事も奏功し、本校の施設・設備には大地震の影響はございませんでした。また、中野島合宿所やラグビー部の田園調布南合宿所の建て替え工事も無事に3月中に終了いたしました。

2. 教職員の異動

高山松三副校長先生が定年退職されました。これに伴い、4月から杉田一己副校長先生が高入生・一貫生両方をご担当されております。宮城秀幸先生（地歴公民）が定年退職されましたが、引き続き専任講師として高入生の授業をご担当されております。また、池田美代子先生（専任講師、英語）、日高文雄先生（同、国語）、公文晶子先生（常勤講師、地歴公民）、長森幹雄先生（同、国語）、井東 昭先生（同、理科）が退職されました。一方、織原香織先生（地歴公民）、奥山直弥先生（理科）、稲垣圭一先生（理科）、倉上俊先生（保健体育）が常勤講師から専任教諭となり、佐藤正子先生（保健体育）、金谷美紀先生（英語）を新たに専任教諭としてお迎えいたしました。更に、澤村麻里奈先生（国語）、川端政克先生（地歴公民）、富永実与先生（理科）、村松奈津子先生（理科）、中島真由美先生（英語）、稲葉ひと美先生（英語）を常勤講師としてお迎えしました。

現在の専任教員数は68名（専任講師・常勤講師を含む）、専任職員数は8名となっております。

3. 部活動の状況

高等学校では関東大会以上に出場したのは、ラグビーフットボール部と空手道部でした。ラグビー部は関東大会でEブロック優勝し、全国大会東京第一地区予選決勝に進出しましたが、残念ながら花園行きの切符を手にすることはできませんでした。この決勝戦は全校生徒で応援をいたしました。空手道部は全国空手道選手権大会に出場し、個人組手ベスト8となっております。

4. 大学進学状況

本校のホームページに本年度の大学進学実績を掲載しております。生徒の大半が大学進学希望であり、生徒の志望進路実現のために教職員一同なお一層真剣に取り組んでいく所存です。勉学であれスポーツであれ、真摯にかつ夢中で取り組み、自分自身の考え方にこだわりを持った「有言実行」の生徒を今後も育てていきたいと考えております。

5. その他

平成22年度は、経済的に就学が困難な生徒の保護者に対して学費を免除する規定に基づき、6名に対して授業料の全額免除を行いました。規程に基づき授業料を免除した場合には、同窓会からその一部をご援助いただく予定であります。

会員紹介

青春の思い出



ミチ シタ イサム
道 下 勇
(昭和31年3月卒)
前狛江市議会議長

私が1962年に目黒学院高校（旧目黒高等学校）に入学した目的は、60年に目黒区洗足で父と長兄が始めた町工場で卒業後に一緒に働くためでした。したがって当然機械科を選考しました。65年に卒業するまで、様々な青春時代の思い出を残すことができました。なかでも特筆することの一つに、64年に国立競技場で行われた東京オリンピックの見学でした。当時、先輩の飯島秀雄選手が日本代表として100メートル競走に出場することで、目黒高校の生徒が見学できたと記憶しております。

また、2代目関口理事長が全校生徒の前で話した海外視察でのエピソードは、今でもよく覚えております。それは、理事長が飛行機のトイレに入っていたときに

エアポケットに巻き込まれたときのことで、座って用を足していた理事長は大変な状況だったそうで、結末はまさに「ウンの付き」だったと愉快そうに報告をされておりました。

生徒の希望で決めた一週間の北海道への修学旅行の体験など、3年間の目黒での高校生活は実に充実した年月でした。

その後、74年多摩川決壊の年に狛江市に移転。狛江市は全国で3番目に面積の小さい市で、多摩川と野川に挟まれた人口77,000人の住宅都市です。この狛江市で、79年4月から今年の4月30日まで8期32年間狛江市議会議員として、人口が急激に増え続けてきたまちづくりに参加、この間、小田急線の立体化や狛江駅、和泉多摩川駅周辺の都市基盤整備、学校建設や特別養護老人ホーム建設など子育て施策から高齢者施策まで「水と緑の狛江市」づくりにかわかり、09年5月から2年間は議長として職務を無事に務めることができました。

最近、議員や議会のあり方が様々に言われておりますが、これからは、選ばれる側から選ぶ側になりましたので、高い見識と良識を持って市民生活の福祉の向上や安心安全のまちづくりに献身する議員は誰か、確かな一市民の眼を持って見ていきたいと思っております。

母校クラブ紹介

吹奏楽部



吹奏楽部顧問・社会科教諭
成 田 哲 先生

我が目黒学院吹奏楽部は、来年（平成24年）で創部50周年を迎えます。少人数ながら、部長を中心に仲良く楽しくとてもよい雰囲気です日々活動しています。しかし、そんな長い伝統と歴史を誇る当部も数々の問題を抱えています。

現在、私たち吹奏楽部が抱えている最大の問題は、部員数の不足であります。新入生に対するポスターによる勧誘のみならず、昼休み演奏によるPR演奏、担任教諭や音楽科教諭による声がけ、そして部員による直接的な勧誘等々、あらゆる方向から新入部員獲得に奔走しました。しかしながら、その努力も虚しく、入部してくれる生徒はごくわずかに留まっています。そんな苦境の中でも、部員は自立し、自主的に考え、自分たちの代で歴史と伝統をなくしてはならないという

強い意識が芽生えたようで、当部のモットーである「自分たちが楽しまなければ聴きにきて下さった方々を楽しませることはできない」という雰囲気作りに努めています。

苦し紛れの考えかもしれませんが、少人数だからこそ一人ひとりの楽器の責任の重さはより一層増しますし、ましてや演奏中のミスはごまかしがありません。また、生活面でも部員同士の交流がより深まり、一体感が生まれるはずで。部の現状は正にそのような状況であります。顧問も部員も決して悲観はしていません。

今年度より共学化し、割合は少ないものの女子生徒



写真は夏合宿の練習模様

が入学してきました。我が吹奏楽部にも待望の女子部員が入部してきました。そうはいってもまだまだ全体の人数は少ないですが、女子生徒の入部によって雰囲気が大きく変わったのは間違いありません。共学化を機に新たな歴史を作るべく、今後も男女関係無く部員募集を継続しながら練習をし、これまで以上に「目黒の吹奏楽部」をアピールしていきたいと思います。

また、大きな節目となる50周年には記念演奏会も計画しておりますので、沢山のOBの先輩方にも足を運んでいただきたいと思います。もちろん演奏者としての参加も大歓迎です！今後も目黒学院吹奏楽部に変わらぬ声援を送っていただければ幸いです。



写真は2010年10月10日 梧林祭での演奏風景

◆クラス会開催報告◆

石 渡 博 巳
(昭和32年 3月卒)

第26回クラス会を平成22年11月6日（土）午後5時30分から中目黒の焼きとり居酒屋「大判」において、開催しました。今回の参加者は10名で、河野君が2年ぶりに参加しました。

私たちのクラスも年々、高齢化が進み、健康に支障を来しているクラスメートもおります。また、大変残念ではありますが、逝去される方もおり、毎年参加者が少なくなっていくのは、淋しい限りです。

当日は、まず再会を祝して内山君の音頭による乾杯でスタート、その後、クラスメートの近況報告の後、懇談へと移りました。参加者からの再婚報告など、近況話で大いに盛り上がりました。

懇談は尽きることなく進み、次回も元気で再会することを約束し、記念写真を撮ってお開きとなりました。



(筆者は写真後列の一番左端)

◆恒例「親子二代卒業生」ご紹介◆

尾 崎 貴 生 (父)	昭和54年3月卒
栄 俊 (子息)	平成23年3月卒
鈴 木 純 也 (父)	昭和58年3月卒
豪 介 (子息)	平成23年3月卒
安 岡 克 彦 (父)	昭和60年3月卒
優 斗 (子息)	平成23年3月卒



Toho Industries Co., Ltd

東邦工業株式会社



●業務内容

熱硬化性プラスチック用インサートナット
熱可塑性プラスチック用インサートナット
携帯電話対応インサートナット

●ISO 9001.14001 認証取得

●本社・工場

東京都目黒区下目黒2丁目12番3号
TEL : 03-3490-1311(代) FAX : 03-3490-3848

●大岡山工場

東京都目黒区大岡山1丁目6番10号
TEL : 03-3717-3153 FAX : 03-3717-6790

●品川工場

東京都品川区南大井1丁目20番7号
TEL : 03-5764-3611 FAX : 03-5764-6760

E-mail : info@toho-indust.co.jp
URL : http://www.toho-indust.co.jp

代表取締役 土 方 國 任 (31年3月卒)
Hijikata Kunitaka

平成22年度決算報告書

平成22年4月 1日から
平成23年3月31日まで

平成23年度予算書

平成23年4月 1日から
平成24年3月31日まで

(収入の部)		(単位：円)	
科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
同 窓 会 費	2,208,000	2,208,000	613名分
入 会 金	414,000	414,000	207名分
賛 助 会 費	550,000	617,670	192名分
雑 収 入	68,000	68,886	会報掲載広告代及び預金利息
当 期 収 入 合 計	3,240,000	3,308,556	
前 年 度 繰 越 金	1,584,855	1,584,855	
収 入 合 計	4,824,855	4,893,411	

(支出の部)		(単位：円)	
科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
総 会 費	1,311,500	1,170,515	
通 信 費	1,150,000	1,023,720	会報発送郵便料
印 刷 費	160,000	145,955	賛助会費振込用紙
雑 費	1,500	840	
会 議 費	91,000	78,157	
役 員 会 費	85,000	75,517	出席者食事代
通 信 費	5,000	2,640	開催通知郵便料
雑 費	1,000	0	
補 助 費	380,000	310,000	
部・同好会補助	350,000	280,000	在校生部活動補助
文 化 祭 補 助	30,000	30,000	梧林祭の祝金
事 務 費	584,000	560,438	
人 件 費	320,000	281,276	会報発送手間代・役員手当等
事務消耗品費	170,000	138,429	会報発送用封筒代
交 際 費	90,000	139,978	慶弔費
交 通 費	1,000	0	
雑 費	3,000	750	
名 簿 費	450,000	437,400	
機 関 紙	250,000	240,000	15,000部作成
卒 業 生 名 簿	200,000	197,400	平成23年3月卒業生分400部
奨 学 金	400,000	400,000	在校生奨学金6名分
予 備 費	100,000	0	
当 期 支 出 合 計	3,316,500	2,956,505	
次 年 度 繰 越 金	1,508,355	1,936,906	
支 出 合 計	4,824,855	4,893,411	

〔特別積立金〕		(単位：円)	
保 管 種 別	本 年 度 末	前 年 度 末	
定 期 預 金	7,000,000	7,000,000	

(収入の部)		(単位：円)	
科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
同 窓 会 費	2,226,600	2,208,000	18,600
入 会 金	458,000	414,000	44,000
賛 助 会 費	550,000	550,000	0
雑 収 入	73,500	68,000	5,500
当 期 収 入 合 計	3,308,100	3,240,000	68,100
前 年 度 繰 越 金	1,936,906	1,584,855	352,051
収 入 合 計	5,245,006	4,824,855	420,151

(支出の部)		(単位：円)	
科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
総 会 費	1,311,500	1,311,500	0
通 信 費	1,150,000	1,150,000	0
印 刷 費	160,000	160,000	0
雑 費	1,500	1,500	0
会 議 費	90,000	91,000	△ 1,000
役 員 会 費	84,000	85,000	△ 1,000
通 信 費	5,000	5,000	0
雑 費	1,000	1,000	0
補 助 費	380,000	380,000	0
部・同好会補助	350,000	350,000	0
文 化 祭 補 助	30,000	30,000	0
事 務 費	584,000	584,000	0
人 件 費	320,000	320,000	0
事務消耗品費	170,000	170,000	0
交 際 費	90,000	90,000	0
交 通 費	1,000	1,000	0
雑 費	3,000	3,000	0
名 簿 費	450,000	450,000	0
機 関 紙	250,000	250,000	0
卒 業 生 名 簿	200,000	200,000	0
奨 学 金	400,000	400,000	0
予 備 費	100,000	100,000	0
当 期 支 出 合 計	3,315,500	3,316,500	△ 1,000
次 年 度 繰 越 金	1,929,506	1,508,355	421,151
支 出 合 計	5,245,006	4,824,855	420,151

平成22年度の決算報告ならびに平成23年度の予算を掲載いたします。

平成22年度決算報告について

当初予算においては、単年度収支で7万円の支出超過を予定して開始されましたが、収入は若干増加のほぼ当初予算どおり、支出は極力経費の節減に努めたことにより、予算に対して36万円の減少となりました。

この結果、単年度収支で35万円の収入超過となり、次年度への繰越金は193万円となりました。

1. 収入の部

同窓会費、入会金は予算どおり収受し、賛助会費は予算比で若干増加し、雑収入はほぼ当初予算どおりとなり、収入合計では、予算に対して約7万円の増加となりました。

2. 支出の部

総会費をはじめとしたほとんどの経常支出科目において節減努力した結果、予算対比で36万円の減少となりました。

なお、在校生に対する奨学金支出は、予算どおりの40万円を執行しました。

〔会計監査報告〕

私は、平成22年4月1日から平成23年3月31日までの平成22年度における会計監査を行い、次のとおり報告する。

会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて監査を行った結果、公正かつ相違ないことを認めます。

平成23年4月26日 会計監査 石渡博己

平成23年度予算について

平成23年度収支予算は、平成23年度の事業計画と平成22年度の収支実績とを勘案して編成しました。

1. 収入の部

同窓会費は618名、入会金は229名を収納予定人員と積算し、また賛助会費は過去実績を勘案して延べ550口を収納予定として予算計上しました。

本年度は、定期総会・懇親会の開催を明年に延期したことに伴い、総会会費および寄附金収入については、予算未計上となりました。

2. 支出の部

本年度の事業計画は、①同窓会だより「桐」の発行、②平成24年3月卒業の卒業生名簿の作成、③在校生の部・同好会に対する補助、④在校生に対する奨学金支出等が主なものです。

これ以外の経常的運営費については、明年の総会・懇親会開催に備えて極力抑制した予算を編成しました。

この結果、次年度への繰越金は192万円を予定し、単年度収支では7千円の支出超過予算となりました。

同窓会賛助会費

納入者のご芳名

平成22年度分の賛助会費として、本年3月末までに納入のあった方は、下記の192名の方々です。ここに、謹んでご報告申し上げます。

★印は新規納入者

ア	青秋	山本	正康	和夫	オ★	岡小	田川	真直	治巨	コ	小古	岩賀	井賀	晃勝	ソ	外山	知山	幸昇	ニ	西西	田山	尚準	広平	マ	真鍋	穀
イ	浅安	野達	富容	進夫	★小	荻奥	堂住	盛明	久弘	小	古小	賀嶋	賀嶋	夫敏	外	山	知	昇	★西	山	準	平男	ミ	三	和	夫
	安阿	部井	敏敏	大彦	★奥	奥奥	住住	直直	弘也	★小	清水	林原	林原	二春	タ	橋橋	英弘	勉雄	ハ★	橋長	本川	真洋	尚一	★宮	神谷	清実
	新有	我藤		洋龍	奥小	野澤	野澤	安和	弘夫	★小	松原	藤藤	藤藤	司文		高	哲昌	樹男		谷井	洋弥	一一	宮宮	岸内	一郎	
	★安	★安						幸幸	二	★昆				文		高		秀男		井	国	任		栄	助	
									夫	サ★	斎五	藤女	藤女	一	ソ	★竹	沢田	太郎	ヒ	土比	井沼	司希	ム	村山	郎	
									基	★佐	々々	藤藤	藤藤	行	ソ	★竹	武但	野苗	行敬	★肥	田井	洋紘	元三	ヤ	矢内	敏郎
									揮	★佐	佐佐	藤藤	藤藤	朗男	田田	田田	中中	夫弘	★平	野畑	龍正	一	矢安	田野	敦	
									生	★真	佐真	田山	山山	弘普	田田	田田	中中	己平	★広	木瀬	健		★山	内内	源太	
									雄	シ★	塩志	原賀	賀倉	之		津田	田	男	フ	深副	井井	泰英	裕信	ヨ	吉井	智宏
									巳	★志	柴清	田水	井	美	テ	出	水進	擴	★藤	藤藤	雅	裕信	ヨ	分	野山	和昭
									士	★白	蕭蕭	井	井	吾	ト	土東	井郷	義東	木	★堀	堀本	芳和	彦清	ワ	野山	和雄
									男	ス	杉鈴	鈴鈴	鈴鈴	健	ナ	長中	尾澤	信康	★増	洞堀	口江	喜眞	熙次	ヨ	野山	和雄
									之		須	須	須	志	ナ	★富	島島	大庄	マ	★本	前牧	義吾	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之					男	ナ	★中	村村	重優	★松	堀本	谷井	義次	郎熙	ヨ	野山	和雄
									之																	

母校が共学になりました

母校では学園創立70周年を記念して、平成23年度入学生から、特進コースで男女共学化が実施されました。

表紙の写真は、入学式に登校してくる女子生徒の模様です。

また、男女共学化に伴い、母校では制服が新しくなりました。

なかなかお洒落な制服ではないでしょうか。



●クラス会・同期会の開催状況をお寄せください！

本紙では、紙面の一層の充実を図り、会員にクラス会、同期会の開催状況を広くお知らせするために、投稿をおまちしています。

〔要領〕開催の模様（開催日時、場所、参加者数等）を、字数1,000字以内にまとめ、写真を添えて投稿者の氏名、住所、電話番号、卒業年を明記して下記にお送りください。

〔宛先〕〒153-8631 目黒区中目黒1-1-50
目黒学院高等学校同窓会事務局 まで

賛助会費の納入をよろしく お願いいたします！ 賛助会費：一口1,000円

賛助会費の納入をよろしくお願いいたします！賛助会費：一口1,000円

賛助会費は一口1,000円で、口数は任意となっております。お志のある方は、複数口のご協力をよろしくお願い申し上げます。また、財政面で安定した本会運営を行っていくために、多数の会員諸兄のご協力をお願い申し上げます。

※納入にあたっては、同封の郵便局用「払込通知票」をご使用のうえ、お振込みください。

◆急募！ 同窓会活動に ご協力いただける人材◆

対 象 年齢不問、同窓会の活動に関心のある方。
パソコン、インターネットに興味のある方大歓迎。

連絡先 下記の同窓会のホームページ、「お問い合わせ・ご意見フォーム」からご連絡をお願いいたします。

★同窓会ホームページのアドレス★

<http://www.meguro.ac.jp/Kiri/>

編集後記

昨年、母校は創立70周年を迎えた。1940年(昭和15年)中堅技術者育成機関として東京機械工科学学校の名称でスタートしたのが、現在の目黒学院高等学校の前身である。

以来、戦中、戦後をとおり、そして、昭和から平成へと風雪を重ねてきたその母校が、本年、新たな歴史のページを開いた。

それが男女共学である。

3年後には、同窓会にも初めての女性会員が誕生する。本誌の編集を始めとして、本会の運営も女性の視点を取り入れた方向へと、変化していくのだろうか。

是非、そうあっていただきたいものである。

母校の男女共学化が、近年マンネリ化している同窓会活動に活発化をもたらしてくれることを、大いに期待したい。(att)